栽培漁業
部門

農林水産大臣賞

〈三重県〉赤須賀漁業協同組合青壮年部研究会

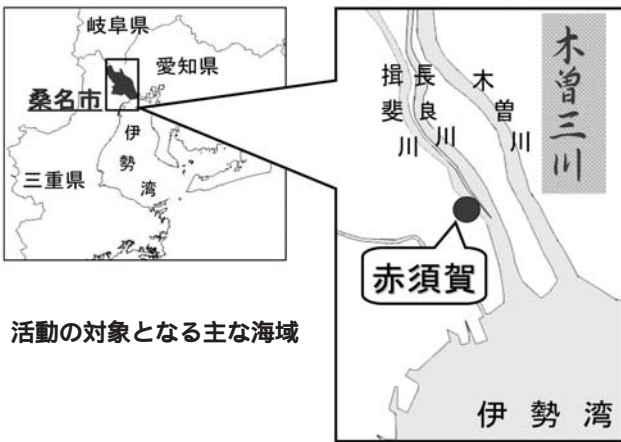
三重県桑名市大字赤須賀526-56 赤須賀漁業協同組合内

あかすかぎよきよきよとうぐみあいせいそうねんぶけんきゅうかい

1 地域の概要と研究会設立の経緯

三重県北部の木曾三川河口に位置する赤須賀地区は、知事許可漁業である採貝漁業に一〇二経営体が、しらかお船びき網漁業に四経営体が、また漁業権漁業である黒のり養殖業に三経営体が従事しており、とりわけハマグリ、シジミ、アサリを対象とした採貝漁業が盛んな地区である。

当地区で漁獲されるハマグリは「桑名のハマグリ」としてその名が全国に知られているが、その漁獲量は干拓や地盤沈下に伴う干潟の消失、漁場環境の悪化により昭和五十年代に入ると急激に減少した。このようなハマグリ資源の減少に伴い、地元漁業者の間でハマグリ資源の増殖、生産対策が強く求められるようになった。



活動の対象となる主な海域

当時、ハマグリ資源の増殖手段の一つである種苗生産について漁協自らによる取り組みは全国的に行われておらず、赤須賀漁業協同組合が昭和五十一年から開始した

ハマグリ資源を回復させるための取り組みを契機として、種苗生産技術の開発及びその実用化を図るべく漁協の下部組織として昭和五十二年七月二十六日に当漁協の青壮年漁業者らによって当研究会が設立された。現在、会長以下二〇名の研究会員が栽培漁業、資源管理、環境保全等の推進およびその普及啓発に精力的な活動を行っている。

2. 活動の内容

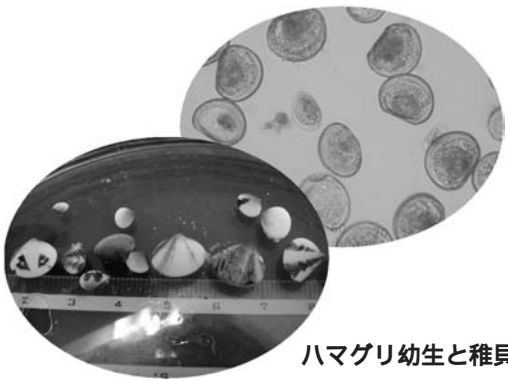
(1) 種苗生産

昭和五十一年、五十二年は技術開発を他の研究機関に委託し、生産された種苗を放流したが、昭和五十三年以降、当研究会自らハマグリ種苗生産を開始している。平成二年からは専用施設として整備された赤須賀漁協ハマグリ種苗生

産施設において実用化レベルでの種苗生産を開始し、種苗生産技術の研究、技術習得の努力を積み重ね、平成十八年には一七〇万個、平成十九年には一三〇万個の種苗を生産するに至っている。この生産された種苗はおよそ五ヶ月間の飼育期間を経て放流される。

(2) 種苗放流

施設にて生産されたハマグリ種苗は、その全てが木曾三川河口に位置する人工干潟に放流されている。種苗放流は栽培漁業の必要性の普及啓発・次世代への教育活動の一環として、研究会会員が船を出して地元小学生（五年生）によって実施されている。



ハマグリ幼生と稚貝



種苗放流の様子

- (3) 保護管理
種苗放流区域は稚貝育成のため一年間禁漁区に指定されている。解禁後は出漁可能となるが、出漁日数は週三日間の制限が設定されている。また、漁獲サイズは殻長三〇ミリ以上、一日あたりの漁獲量は三〇キロまでに制限され、さらに作業時間は日の出から午前十一時までまでに定められている。
- (4) 効果の検証
年に一回、放流場所において放流個体の成長追跡及び生残状況の把握調査を実施している。加えて県水産研究所・普及指導員と共同

で周辺海域の調査（環境・再生産加入状況・資源密度・成長など）を実施している。

(5) 普及啓発
栽培漁業の必要性の周知活動の一環として、研究会会員による小学校での出前講義の実施（年二回程度）、種苗生産施設への小学生の見学の受け入れ等の活動を積極的に実施している。また、新聞、テレビ局などマスメディアへの対応を通じた栽培漁業の周知にも取り組んでいる。

3. 栽培漁業への功績
(1) ハマグリ資源にもたらした効果
当地区のハマグリ漁獲量は平成七年には最盛期である昭和四十六年のおよそ三千分の一となる〇・八トンまで減少したが、厳しい資源管理に加え、昭和五十一年から三十年間にわたる種苗生産及び種苗放流を継続してきた結果、平成十九年のハマグリ漁獲量は平成七年のおよそ二二〇倍となる九五トンにまで回復している。

また、県水産研究所が木曾三川河口干潟周辺で平成二十年三月に実施したハマグリ資源量調査で

は、かつてはほとんどみられなかった天然稚貝が、多いところでは揖斐長良川河口で一平方メートル当たり四五〇個、木曾川河口で一平方メートル当たり六七〇個確認され、種苗放流による継続した資源添加が再生産構造を回復させることが明らかとなった。

(2) 漁業経営にもたらした効果
漁業者が危機感を持ち、地先資源の回復手法として種苗生産に自ら取り組み始め、視察を行うなど情報収集に努めるほか、長年種苗生産技術の研究を積み重ね、試行錯誤の末に安定した種苗生産を行うことができるようになった結果、平成七年まで減少していたハマグリ漁獲量は回復傾向を示し、水揚げ金額も平成七年の一七一万円から平成十九年には八、九〇〇万円に増加している。

(3) 波及効果（近隣地域への展示効果）
種苗放流の継続によるハマグリ資源の回復は、桑名ハマグリブランドの復活としてテレビ局をはじめとする各種マスメディアに取り上げられた。この情報は食の安全安心を求める消費者に注目され、桑名市を訪れる観光客数の増加に

も一役かっている。



桑名のハマグリ

また、漁業者自らが種苗生産および種苗放流の取り組みを始め、継続してきた経緯もあり、当地区のハマグリをはじめとする漁獲資源への資源管理の意識は県内の他地区に比べて高く、その取り組みも積極的である。当研究会はその活動実績を県漁村青壮年婦人活動実績発表大会等で幾度となく発表しており、県内他地区への波及効果も高い。さらに、漁協がハマグリの種苗生産施設を整備し、漁協の研究会が自ら取り組む栽培漁業に対して、他県の漁協等からの視察も多く、全国的な波及効果も高い。